

第2章 計画の基本的な考え方

1 基本方針

子どもたちが読書の楽しさを知り、自ら進んで読書に親しむことができる環境をつくります。

子どもは、読書を通じて、新しい世界を知り、感動し、自分なりの考えを持つことができるようになります。読書経験を積み重ねていく中で、感性を磨き、判断力を伸ばし、表現力等を高めるとともに、コミュニケーション能力の基礎を築いていきます。また、多くの知識を得たり、多様な文化に触れたりすることにより、子どもは学ぶ楽しさや知る喜びを感じ、生涯にわたって自発的に学習する習慣を身に付けていきます。こうした知的活動の基礎となる「読書」は、子どもの成長にとって大変重要であり、人生をより深く生きる力を身に付けるための大切な手段の一つです。

今後ますます情報化が進展する社会において、より良く生きるために、読書の幅を広げ、読書の習慣を養うことは重要であり、子ども一人一人が自分の人間性を培うこと、様々な方法で知識や情報を収集し活用する力を身に付けること、社会との関わりを学びつながっていくことなど、自分の生活を豊かにできる子どもの育成を目指しています。

このことから、さまざまな場所において「子どもと本をつなぐこと」は、大人の大変重要な役割です。子どもに関係する関係機関や団体と協力して、本に親しむことができる環境を整備するよう努めます。

2 基本目標

すべての子どもたちが読書に親しむ機会を持てるように、子どもに関係するすべての機関で読書の推進を図ります。

子どもの読書習慣を定着させ、自主的な読書活動を推進するためには、家庭・地域・学校・保育園・認定こども園・図書館など地域全体で読書を推進する取組を進める必要があります。

そのためには、家庭・地域・学校・保育園・認定こども園・図書館など、それぞれの役割を明確にするとともに、相互に連携するなどして、子どもの発達段階に応じて、多様な取組を進めていくことが重要なことから、前計画の基本目標を引継ぎ一層の推進活動を行います。

3 計画の対象

0歳から概ね18歳までを対象とします。